

令和5年度「学ぶ力」育成プログラム			学校番号：26019
学校名：南の沢小学校			
改訂のポイント		○よさを発揮できる経験、仲間によさを認められる経験、仲間を思いやる優しさを互いに発揮し温かな集団の中で過ごす経験を、日々の授業を通して積み重ねることで、一人ひとりが輝く教育活動を創造する。	
項目名	項目内容	項目内容の具体	
目標	「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像	☆自分の考えや思いをもち、対話しながら学びを深め、自らの成果や課題を実感し、新たな学びに向かう子ども。 ☆本気で学びに向かう子ども。	
「学ぶ力」に関する成果や課題	主体的に学習に取り組む態度	【昨年度の具体的な取組】 ○子どもが興味・関心・問題意識をもてるようにするための問題提示や発問等の工夫	【成果】 ⇒導入の工夫により、課題解決に向けて動き出す子どもの姿が見られた。
	思考力・判断力・表現力等	【昨年度の具体的な取組】 ○本気で学びに向かう学校研究の推進 ○思考・表現場面でのICTの活用	【成果】 ⇒対話の場の想定・設定と、教師の巧みなかわりや問い直し等により学びが深まる様子が見られた。 ⇒ICTを活用しよりよく交流・表現する姿が見られた。
	基礎的・基本的な知識及び技能	【昨年度の具体的な取組】 ○南の沢小の朝学習の確立やICTの活用	【成果】 ⇒朝学習に年間を通して取り組むことで、課題を達成する子どもの姿が見られた。
今年度の具体的な改善策（取組）	取組の最重点	【取組の共有】対話を通して学びを深める子どもを育てるために、教師力に磨きをかける 個別最適なスモールステップによるよさが輝く経験の積み重ね	
	具体的な改善策（取組）	○子どもが「今日はどんなことを学んだか」「自分ができた・わかったこと、仲間のおかげでできた・わかったこと」「次どんなことができるか・どんなことをしたいか・自分の課題は何か」を書き表すように個別最適にかかわり、教師の価値付け・仲間の他者評価により、学びや成果、次の学習の見通し、学んだ楽しさを見える・実感できるような授業を行う。 ○子どもが学びの目的（～のために）・意味をもつようにするために、子どもの姿・心をよく見て、子どもの言葉・心の声によく耳を傾け、比較を主とした場面設定・言葉かけをする。子どもが自分の考え・思いを一人ひとりがもったり、子どもが思考・表現方法を使ったり、相手にどうしたらよりよく伝わるか考え、選んだりできるようにするために、まず多様な思考・表現方法を身に付けるようにする。一人ひとりが様々な形態で発表し、よさが輝く経験を積み重ね、不足や困難さを、仲間とともに少しずつ補い、乗り越えながら、明らかにしていくことを積み重ねる。 ○個別最適な進み方（お手本を見ながら・仲間からアドバイスや助けを受けながら・分量を減らしながら・空き時間を利用しながら）で、どんな学習もねらいまで一人ひとりが到達できるようにする。最後は「できた!」「わかった!」「（困難さはあったけど）楽しかった!」で終わるように授業改善を進める。 ○朝学習（読書・漢字・計算・エクササイズ・係活動）の積み重ねや努力の成果が見える・実感できるようにするために、タブレットの活用やファイル化・個別最適なスモールステップ化・全校共有化を行う。 ○全校共通指標（さわっ子本気度アンケート）を2・3か月の期間で定期的に行い、個人・学級に関して振り返り、よさや伸び・課題を学級活動を通して話し合い、グラフに表し、見える化することで、自分たちのがんばりの成果を実感できるようにする。 ○専科指導（発展の見直し分）の加配を活用し、基礎基本が定着するようにする。 ○「小中一貫した教育 グランドデザイン」に基づいた小中の目指す子ども像の共有と取組の交流。 ○「さっぽろっ子『学び』のススメ」「まほうのかいわ」を活用した家庭学習の取組の充実。	
検証の方法	各種調査や子どもの自己評価指標の活用	○各教科等の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用（日常のテストやノート、観察等）と、学校全体の学習状況の把握。 ○全国学力・学習状況調査や学校独自の調査結果（さわっ子本気度アンケート）等の活用。 ○札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）、ICTの活用に係るアンケートの活用。	